

日曹 **コテツ**® フロアブル (KOTETSU FL)

登録番号 第19186号
種類名 クロルフェナピル水和剤
chlorfenapyr
殺虫剤分類 13
性状 類白色水和性粘稠懸濁液体
有効年限 5年

有効成分 クロルフェナピル 10.0%

毒性 医薬用外劇物

包装 (100mℓ×10本)×6箱、250mℓ×20本、500mℓ×20本

■特長

1. 殺虫スペクトルが広く、多くの作物に適用できます。
2. 難防除害虫であるコナガ・ヨトウムシ類・ミナミキイロアザミウマ・ミカンキイロアザミウマ・ハダニ類などに高い効果があります。
3. ユニークな構造（ピロール系）を有し、既存の殺虫剤に感受性が低下した害虫にも有効です。

■適用害虫名及び使用方法

(2021年12月22日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
キャベツ	コナガ、アオムシ タマナギンウワバ ヨトウムシ オオタバコガ ハイマダラノメイガ シロイチモジヨトウ	2,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散布
	メキャベツ			ハスモンヨトウ		
はくさい	ヨトウムシ カブラハバチ	収穫前日まで				
だいこん	コナガ、アオムシ ダイコンサルハムシ	収穫14日前まで				
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ	4,000～6,000		2葉期まで 但し、 収穫14日前まで	1回	
非結球あぶらな 科葉菜類 (こまつな、チンゲ ンサイ、なばな類、 非結球はくさい、 非結球メキャベツ を除く)	コナガ	収穫14日前まで				
こまつな	ハクサイダニ アオムシ	2,000		収穫3日前まで	2回以内	
チンゲンサイ	コナガ			収穫7日前まで		
なばな類	ハスモンヨトウ	収穫3日前まで				
非結球はくさい	アオムシ コナガ	収穫7日前まで				
非結球メキャベツ	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで				
かぶ	ナモグリバエ ヨトウムシ コナガ	収穫前日まで				

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
茎ブロッコリー	アオムシ	2,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散布
ブロッコリー	コナガ、アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ			収穫3日前まで		
カリフラワー	コナガ			収穫7日前まで		
あしたば	ウドノメイガ			1回		
モロヘイヤ	アザミウマ類					
レタス	オオタバコガ ナモグリバエ ハスモンヨトウ ヨトウムシ			2回以内		
ねぎ	シロイチモジヨトウ ヒョウタンゾウムシ類 ネギハモグリバエ ネギコガ			2回以内		
トマト ミニトマト	オオタバコガ、ナミハダニ ミカンキイロアザミウマ トマトサビダニ			3回以内		
なす	ヨトウムシ ハスモンヨトウ チャノホコリダニ テントウムシダマシ類			4回以内		
ピーマン とうがらし類 (ししとうを除く)	オオタバコガ ミカンキイロアザミウマ ミナミキイロアザミウマ ハダニ類			4,000	2回以内	
ししとう	ヒラズハナアザミウマ					
すいか	ミナミキイロアザミウマ ハダニ類、ウリノメイガ オオタバコガ	2,000	2回以内			
うり類 (漬物用)	ミナミキイロアザミウマ ハダニ類		収穫前日まで			
きゅうり	ミカンキイロアザミウマ ウリノメイガ、ウリハムシ	3回以内				
にがうり かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミナミキイロアザミウマ	2,000	2回以内			
オクラ	オオタバコガ ハスモンヨトウ					
いちご	ハダニ類 シクラメンホコリダニ ミカンキイロアザミウマ					
すいぜんじな	ヨトウムシ、ハダニ類					
ふき	ハスモンヨトウ ハダニ類	2,000	2回以内			
ふきのとう			収穫7日前まで 収穫90日前まで			

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ/10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法				
つわぶき とうき	ハダニ類	2,000	100～ 300	収穫14日前まで	2回以内	散 布				
みしまさいこ	ハスモンヨトウ			収穫21日前まで						
アスパラガス	オオタバコガ ハスモンヨトウ ハダニ類、ヨトウムシ ジュウシホシクビナガハムシ		100～ 500	収穫前日まで						
とうもろこし ヤングコーン	ハダニ類 オオタバコガ ツマジロクサヨトウ		100～ 300							
豆類(未成熟) (ただし、さやいんげん さやえんどう、実えん どうを除く)	ハダニ類									
さやいんげん	アズキノメイガ									
さやえんどう 実えんどう	ハスモンヨトウ									
あずき	ハダニ類									
	ノメイガ類									
せんきゅう	ハダニ類									
しょうが	ハスモンヨトウ	32			3.2	収穫前日まで	2回以内	無人航空機 による散布		
みょうが (花穂)	ハダニ類	2,000			100～ 300	※2	2回以内	散 布		
みょうが (茎葉)				※2						
てんさい	ヨトウムシ、ハダニ類 カメノコハムシ		収穫7日前まで							
さといも さといも (葉柄)	カンザワハダニ ハスモンヨトウ		収穫3日前まで							
はすいも (葉柄)			収穫前日まで							
やまのいも やまのいも (むかご)	カンザワハダニ ナガイモコガ		収穫3日前まで							
かんしょ	ハスモンヨトウ ハダニ類		2,000～4,000	100～ 300		収穫前日まで				
	ヨツモンカメノコハムシ シロイチモジヨトウ					収穫前日まで				
しゅんぎく			2,000	100～ 300		収穫14日前まで			1回	散 布
みつば	ハスモンヨトウ					収穫14日前まで 但し、 伏せ込み栽培は 伏せ込み前まで				
		収穫3日前まで								
よもぎ	ミナミキイロアザミウマ	収穫14日前まで								
セルリー	ヨトウムシ			2回以内						

※1 みょうが(花穂)の使用法/散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する

※2 みょうが(茎葉)の使用時期/みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法	
にんじん	ヨトウムシ、キアゲハ ヒョウタンゾウムシ類	2,000	100～ 300	収穫前日まで	2回以内	散 布	
食用プリムラ	ハスモンヨトウ			収穫14日前まで			
食用金魚草 食用なでしこ 食用エキザカム 食用せんにちこう 食用トレニア 食用パンジー	ミカンキイロアザミウマ ヨトウムシ類 ハダニ類			収穫3日前まで			
食用ミニバラ				収穫14日前まで	1回		
葉にんにく	ハダニ類			収穫7日前まで	3回以内		
葉ごぼう	ハスモンヨトウ			収穫3日前まで	2回以内		
やなぎたで コリアンダー (葉)				収穫7日前まで			
エンサイ				収穫3日前まで	1回		
つるむらさき				収穫7日前まで	2回以内		
たらのき				収穫90日前まで	2回以内		
はまぼうふう (葉)	ハダニ類			親株養成期 但し、 収穫90日前まで	3回以内		
うど	シクラメンホコリダニ			根株養成期 但し、 収穫75日前まで	2回以内		
食用ぎく	ミカンキイロアザミウマ			収穫3日前まで			
きく(葉)	ミナミキイロアザミウマ ヨトウムシ類 ハダニ類			収穫7日前まで			
きく	オオタバコガ アワダチソウゲンバイ			150～ 300	発生初期		2回以内
花き類・ 観葉植物 (きく、ストック を除く)	ヨトウムシ類 ハダニ類 ミカンキイロアザミウマ						
ストック	コナガ、アオムシ						
アザレア	チャノホコリダニ			100～ 300	200～ 700		200～ 400
しきみ	クスアアナキゾウムシ	200～ 700					
茶	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ カンザワハダニ チャノナガサビダニ チャノホコリダニ シャクトリムシ類 チャノコカクモンハマキ マダラカサハラハムシ チャトゲコナジラミ	200～ 400	摘採7日前まで				

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェニルを含む 農薬の総使用回数	使用方法							
りんご	キンモンホソガ ナミハダニ ハマキムシ類 ミノガ類	2,000	200～ 700	収穫前日まで	2回以内	散布							
	ヨモギエダシヤク リンゴサビダニ	2,000～4,000											
ブルーベリー	イラガ類 オウトウショウジョウバエ	2,000					200～ 700	収穫前日まで	3回以内	散布			
小粒核果類	オウトウハダニ ウメシロカイガラムシ イラガ類												
もも	ミカンキイロアザミウマ	2,000～4,000					200～ 700	収穫7日前まで	2回以内		散布		
ネクタリン	モモハモグリガ カンザワハダニ ナミハダニ モモサビダニ ウメシロカイガラムシ	2,000											
	ミカンキイロアザミウマ	2,000～4,000											
おうとう	カンザワハダニ ナミハダニ チャノキイロアザミウマ オウトウショウジョウバエ ウメシロカイガラムシ	2,000					200～ 700	収穫7日前まで				2回以内	散布
ぶどう	ミカンキイロアザミウマ チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ブドウサビダニ ハマキムシ類	2,000～4,000											
	カンザワハダニ ナミハダニ、ミノガ類 ハスモンヨトウ トビイロトラガ モンキクロノメイガ コガネムシ類 ブドウハモグリダニ	2,000											
ぶどう (温室、ガラス 室等密閉 できる場所)	チャノキイロアザミウマ	150mℓ /10a	6	収穫14日前まで	常温煙霧	散布							
いちじく	ヒラズハナアザミウマ カンザワハダニ ショウジョウバエ類	2,000	200～ 700	収穫前日まで	2回以内		散布						
キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ コガネムシ類	2,000～4,000											
かき	カキノヘタムシガ イラガ類 アザミウマ類 カキサビダニ		2,000～4,000	200～ 700		収穫14日前まで		2回以内		散布			
	ナミハダニ カンザワハダニ	2,000											

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍) または使用量	使用液量 (ℓ /10a)	使用時期	本剤およびクロル フェナピルを含む 農薬の総使用回数	使用方法
なし	ナミハダニ カンザワハダニ ニセナシサビダニ	2,000～3,000			3回以内	
	ヨモギエダシヤク チャノキイロアザミウマ	2,000				
かんきつ	アザミウマ類 (ネギアザミウマを除く) ミカンサビダニ チャノホコリダニ	2,000～6,000	200～ 700	収穫前日まで		散布
	ヨモギエダシヤク ハスモンヨトウ リュウキュウミカンサビダニ カネタタキ スグリゾウムシ	2,000～4,000				
みかん 〔温室、ガラス 室等密閉 できる場所〕	ミカンキイロアザミウマ	300mℓ /10a	10		2回以内	常温煙霧
さんしょう (果実)	チャノキイロアザミウマ	4,000	200～ 700	収穫7日前まで		
なんてん(葉)	アザミウマ類	2,000	100～ 300	収穫14日前まで		散布
マンゴー	チャノキイロアザミウマ		200～ 700			
ゴレンシ	カンザワハダニ					

△ 効果・薬害などの注意

1. 使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出してください。
2. ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、次のことに注意してください。
 - (1) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
 - (2) できるだけ日中の煙霧はさけ、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態としてください。
3. ボルドー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調製した後にボルドー液と混合してください。
4. ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないよう、ていねいに散布してください。
5. 散布量は対象作物の生育段階・栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
6. 植物体への浸透移行性がないので、かけ残しのないように葉の表裏に十分に散布してください。
7. きゅうり、なす、はくさい、だいこん、非結球あぶらな科葉菜類、なばな及びセルリーの幼苗期に使用すると薬害を生じることがあるので注意してください。
8. ピーマン、とうがらし類に使用する場合、品種により葉に褐点などの薬害を生じることがあるので予備散布により薬害のでないことを確認してから散布してください。
9. かき(刀根早生など)の着色期の散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
10. すいかに使用する場合、葉に薬害を生じることがありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
11. ながうりの幼苗期は薬害を生じるので、定植前には使用しないでください。定植後のながうりに使用する場合、葉に灰褐色などの斑点の薬害を生じることがありますので、予備散布により薬害の出ないことを確認してから散布してください。
12. 西洋かぼちゃ(黒皮栗、青皮栗、えびす、雪化粧、みやこ、黒皮甘栗、栗味、栗マロン、芳香等)には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
13. ほうれんそうに使用する場合、葉に白化などの薬害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用してください。
14. ばら、食用ミニバラにはじめて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

15. カーネーションへの散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
16. シクラメンに使用する場合、新葉に薬害を生じる場合があるので、薬害の出ないことを事前確認してから散布してください。
17. 周辺の作物にかかるると薬害を生じる場合があるので、かからないよう十分に注意して散布してください。
18. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
19. ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - (1) ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - (2) 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - (3) 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
20. マルハナバチに影響があるので注意してください。
21. 無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
 - (1) 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (2) 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3) 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4) 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - (5) 散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
 - ・使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ・使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
 - ・散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
22. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
23. 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

24. 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
25. 散布等の作業の際は防護マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
26. 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分に換気した後に入室してください。
27. 街路、公園などで使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類、甲殻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所に、カギをかけて保管してください。盗難・紛失の際は警察に届け出てください。

○火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤などで消火に努めてください。

○漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。

○移送取扱いは、ていねいに行ってください。

○使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

●コテツフロアブルの上手な使い方

- ①希釈の際は、原液に粘性があるので、十分攪拌してから使用してください。あらかじめ、少量の水に溶かしてからタンクに入れると分散しやすくなります。
- ②繁殖が早く、密度が高くなりやすい、ハダニ類、アザミウマ類を防除する時は、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布してください。
- ③周辺の作物（特にメロン・しそ等）にかかると薬害を生じる場合があるので、薬液がかからないよう十分に注意して散布してください。

キャベツ、はくさい、だいこんの場合

- ④コナガ対象に使用する場合には、基幹防除剤として発生初期に使用してください。
- ⑤コナガは、薬剤抵抗性が発達しやすいので、作用性の異なる他の薬剤と輪番で1作期1回の使用としてください。
- ⑥浸透移行性がないので、結球前に使用し、かけむらのないよう十分量を散布してください。
- ⑦はくさい、だいこんの幼苗期には薬害のおそれがあるので、定植活着後、8葉期以降に使用してください。

なす、きゅうりの場合

- ⑧ハダニ類・アザミウマ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので作用性の異なる他の薬剤と輪番で1作期1回の使用としてください。
- ⑨なす、きゅうりの幼苗期（1～3葉期）には薬害を生じる場合があるので、使用しないでください。

すいかの場合

- ⑩すいかに使用する場合、機能性展着剤の加用は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。

果樹の場合

- ⑪リンゴハダニ・ミカンハダニ・クワオオハダニなど、パノニカス属のハダニには効果がありません。
- ⑫マメコバチに影響があるので、受粉にマメコバチを利用する場合には開花期での使用はさけてください。
- ⑬ぶどうの結実期に使用する場合は、果実が小豆大になるまでに散布してください。（果粉溶脱）